

お茶席に

一つ紋付きのきものに無地の袴



御召の無地のきものに、御召の羽織。茶席では白足袋に雪駄を履きます。

刺繍で陰紋を表現した一つ紋。目立たないので、茶席以外でも着られます。



日頃の稽古にきものを着る場合は、着流しでも大丈夫です。袴をつけるのは、初釜などの正式な茶会に出席するときや亭主側の場合です。一般的に茶席内では羽織をつけず、きものと袴だけを着ます。紋をつけた御召のきものに、織り縞の仙台平か、無地の御召の袴の組み合わせは、ほとんどのお茶席で通用します。紋は数が多いほど格が上がりますが、茶席では一つ紋が多く用いられます。紋には染め抜きのほか、刺繍で紋を表した繡い紋もあります。きものを広範囲に活用したい場合は、線で形を表現した陰紋が重宝します。



きものと羽織がお揃いのアンサンブル。

街着に

細のアンサンブルや着流し

きものと羽織が同じ色柄の生地で作られているものをアンサンブルと呼びます。かつて男性のきものは、このアンサンブルが定番でした。現在もきものと羽織のセットで販売されているものもあります。お揃いにこだわらず、あえてきものと羽織の生地を変えて眺める人も増えています。別々に考えれば、ジャケットとパンツのような感覚で、きものと羽織を自由に組み合わせることが可能です。きものだけを着流しで着ることも可能なので、装いの幅が広がるというわけです。アンサンブルはちょっとした外出に、着流しは自宅でのくつろぎ着のほか、買い物や食事会、観劇などにも活用できます。



袴や羽織をつけず、きものだけの着方を「着流し」といいます。ぐっと気軽にフラットな装い。